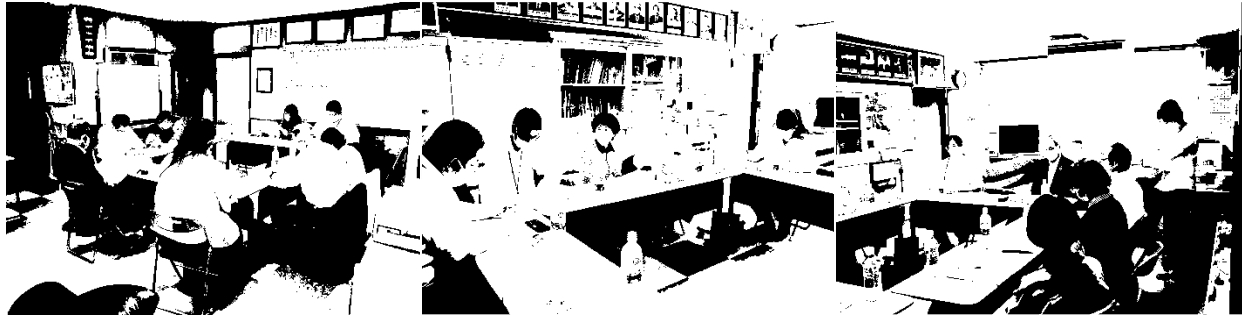




## 第2回学校運営協議会が開催されました！



10月6日(木)に北九州市教育委員会学校教育課 学校家庭地域連携担当主幹 佐藤 文俊様、学校教育課 指導主事 松村 央子 様をお迎えして、尾倉中学校区第2回学校運営協議会を血倉小学校校長室で実施しました。

第2回学校運営協議会は、血倉小学校 森永 勇芽校長が代表してあいさつを述べました。次に、北九州市教育委員会学校教育課 指導主事 松村 央子 様からご挨拶をいただきました。その後、協議に入りました。協議では、以下の4点について話し合いました。

- ① 「スクールプラン」及び学校評価の中間報告【教務主任】
- ② 全国学力・学習状況調査結果の分析(中学校3年生・小学校6年生)【教務主任】
- ③ 1学期、2学期の学校の様子について【校長】
- ④ 小中一貫教育推進に向けて

特に、④の「小中一貫教育推進」については、3つの視点で意見交換を行いました。地域の方々子どもたちに深い愛情をもっておられることが分かりました。以下、概要です【抜粋】。

### 【視点①】地域の子どもの課題は何か

- 「課題」という重いものは思いつかない  
→特に、血倉小では、低学年～高学年まで、仲良くいい意味で交流があると感じている。  
→教員によるサポートがあり、地域の大人による情報網もまだ生きている。  
→強いて言うならば、この体制をどのように残していくのか。若い世代が地域とどう接点をもっていかを、継続させたい。
- 地域全般の子どもの課題を感じることは少ないが、学童クラブの子どものたちを見て感じることは、「基礎的な学習を含む『学ぼうとする力』」「様々な経験の積み重ね」「異年齢との活動」「挑戦しようとする力」体力面」などが不足していると感じている。
- 少子化、核家族化等で、人間関係の希薄化でコミュニケーション能力の低下が考えられる。
- 地域での子ども同士、または、大人たちと一緒に活動する体験活動の減少  
→地域の大人と子供たちとのかわりが減少
- 規則正しい生活習慣  
→家庭における親の子育て環境(家庭教育学級の充実など)

### 【視点②】子どもたちにどのような力を身に付けさせたいか

- 答えを教えてもらうのではなく、自分で切り開いて解決していこうという力

- たくましく行動する力
- 自ら学びたくましく生きる力
- 思考能力以外にも、人前で話せる力⇒人前での発表の機会は経験値になる
- 身に付けさせたいこと(必要な力)は、「基礎的な学習を含む学ぼうとする力」「挑戦しようとする力」「体力の向上」「思いやりの心」  
→宿題をする、本を読む、みんなでDVD鑑賞をするなどにおいても、10年前までは自発的にできていたことが、現在では取り組めない児童が増えてきた(個別の対応を要する児童が増えた)
- 難しいと思うが、基本的な生活習慣が一番身に付けてほしい事項である。
- 児童生徒の関心が広く学校外のことにも向けられ、将来ボランティア活動に目をむけてくれること。
- 近年の子どもたちは、多くの情報に囲まれた環境にいるため、知識は増えているが、受け身的なものが多く、自ら学ぶ意欲や関心が低いように思われる。

### 【視点③】小中一貫教育の中で、地域と学校連携して何か取り組めることはないか

- 単純な関わりだけでなく、教育となると地域の負担も上がり、難しい。子どもたちにどの程度教育的な効果を得られるかも難しい
- 人前で発表する機会については、コロナ禍ではあるが、発表の場で大勢の保護者に参加いただき、発表となるように協力できないか。  
→参加人数を子どもたちに伝えて、「みなさんは〇〇人の大人の前で発表しました」という自信を付けてもらうことはできるか。
- コロナ過でとぎれた活動をどう元に戻していくか。
- 小学生においては、中学校に進学することが楽しみになるような活動(勉強や運動面など)  
→現在も行われていると思うが、中学校から専門の先生が小学校へと出向き、勉強や運動の活力になるような活動。中学校になって困ることのないよう基礎的な学力の増加を目指す。
- 地域の方々得意分野を生かし、子どもたちに伝授する機会を設ける。  
→地域の清掃活動や校内においての必要なものを一緒にDIYしたり、料理したりするなど。  
→校内や地域で必要なものを児童生徒に作ってもらう。これで経験値が増えたり、やる気につながったりすれば良いと思う。  
→勉強面においては、近くの大学などに協力をお願いし、昼休み・放課後において宿題などの勉強のアドバイスをいただく。  
→子どもたちも多くの人に接することで「なりたい自分像」のヒントにつながっていただけたらいいかと思う。
- 地域の大人と一緒に活動を楽しむ。  
→例えば、「こどもまつり」「文化祭」などのような活動の中で、自分たちが考えた催しを運営するなど。⇒できるならば、儲けを出し、そのお金で次への活動費に充てたり、地域でのお手伝いを頂いた方や大学生講師の謝金、児童生徒のための物品を購入したりできれば、経験としていきてくるのではないかと思う。
- 地域のイベントや市民センターのイベントを通して学校運営に活用できるものがないか。難しいと思うが、企画してみてもどうか。
- 地域の中で、特技をお持ちの方のデータベースを作成し、学校教育の中に生かす。  
→例えば、小4・5・6年生のクラブ活動や生活科、中学校の家庭科・保健体育科
- 小中学校で合同行事のとき、地域の方にも声掛けし、世代間交流をする。  
→例えば、花の苗植え、学校周辺の清掃、児童会・生徒会との話し合いに地域の方の参加、プルタブ・切手・ペットボトルキャップの収集作業の一本化
- 小・中・幼に加え、地域の諸行事予定一覧表を作成し、地域の中で行事が重ならないようにしたい。  
(貴重なご意見をありがとうございました)